

作成日 2019/09/04

改訂日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 SRシール 高耐候クリアMAX
 製品コード M090408
 供給者の会社名称 サンライズ株式会社
 住所 大阪市中央区道修町1-7-1
 担当部門 大阪研究所
 電話番号 06-6202-7700
 FAX番号 06-6202-7900
 電子メールアドレス sunrise-ho@sunrise-bg.co.jp
 緊急連絡電話番号 06-6202-7700
 推奨用途及び使用上の制限 建築用シーリング材

2. 危険有害性の要約
GHS分類

健康有害性 急性毒性(吸入:蒸気) 区分4
 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 警告
 危険有害性情報 H332 吸入すると有害
 注意書き
 安全対策

警告
 H332 吸入すると有害
 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレートの吸入を避けること。(P261)
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
 応急措置 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
すず及びその化合物	1%未満	非開示	非開示	322	非開示

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

水で数分間注意深く洗うこと。
 口をすすぐこと。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

5. 火災時の措置 消火剤		粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、砂、一般の泡消火剤。
特有の危険有害性		周辺火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法 消火を行う者の保護		激しく加熱すると燃焼するものもある。危険でなければ火災区域から容器を移動する。消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置		関係者以外は近づけない。
環境に対する注意事項		作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材		環境中に放出してはならない。河川等に排出され、環境へ影響を及ぼさないように注意する。
二次災害の防止策		危険でなければ漏れを止める。
		蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。
		少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
		排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項		取扱い後はよく手を洗うこと。
		飲み込みを避けること。
		皮膚との接触を避けること。
		屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
		ガスの吸入を避けること。
保管	接触回避 衛生対策 安全な保管条件	『10. 安定性及び反応性』を参照。
		取扱い後はよく手を洗うこと。
		『10. 安定性及び反応性』を参照。
8. ばく露防止及び保護措置 設備対策		取扱いについては全体換気装置を設置した場所で行う。
		空気中の濃度を制御するには、一般適正換気で十分である。
保護具	呼吸器の保護具	特別な換気要求事項はない。
		本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。
		換気が不十分な場合には、適当な呼吸器保護具を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	色	クリア
外観	特異臭	
臭い	データなし	
臭いのしきい(閾)値	データなし	
pH	データなし	
融点・凝固点	データなし	
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし	

引火点		100°C (セタ密閉式)
蒸発速度		データなし
燃焼性(固体、気体)		データなし
燃焼又は爆発範囲	下限 上限	データなし データなし
蒸気圧		データなし
蒸気密度		データなし
比重(密度)		1.07±0.05
溶解度		データなし
n-オクタノール/水分配 係数		データなし
自然発火温度		データなし
分解温度		データなし
粘度(粘性率)		300±150Pa・s
動粘性率		データなし
10. 安定性及び反応性		
反応性		通常取り扱い条件においては安定 水により自己反応し硬化する。
化学的安定性		常温で安定
危険有害反応可能性		酸、アルカリ、酸化剤、還元剤と反応する可能性がある。
避けるべき条件		通常の使用では問題ない。
混触危険物質		情報なし。
危険有害な分解生成物		燃焼時にNOx、COx、SOxが発生する可能性がある。
11. 有害性情報		
急性毒性	経口	急性毒性推定値が20702.8167086mg/kgのため区分外に該当。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。
	経皮	急性毒性推定値が3153.7329462mg/kgのため区分5に該当。 JIS Z 7252に採用されていないため区分5から区分外に変更。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。
	吸入	(気体) データ不足のため分類できない。 (蒸気) 急性毒性推定値が2898.7324382ppmのため区分4に該当。 (粉じん・ミスト) データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。
呼吸器感作性又は皮膚感作性		毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。 (呼吸器感作性) データ不足のため分類できない。 (皮膚感作性) 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。

生殖細胞変異原性	<p>毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p> <p>危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。</p>
発がん性	<p>毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p> <p>危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。</p>
生殖毒性	<p>毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p> <p>(生殖毒性)</p> <p>危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。</p>
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	<p>毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p> <p>(生殖毒性・授乳影響)</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。</p>
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>毒性未知成分を考慮濃度(1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p> <p>危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。</p>
吸引性呼吸器有害性	<p>毒性未知成分を考慮濃度(1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p> <p>動粘性率が不明のため、分類できないに該当。</p>
12. 環境影響情報	
水生環境有害性(急性)	<p>(毒性乗率 × 100 × 区分1) + (10 × 区分2) + 区分3の成分合計がカットオフ値以上のため、区分外に該当。</p> <p>毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p>
水生環境有害性(長期間)	<p>(毒性乗率 × 100 × 区分1) + (10 × 区分2) + 区分3の成分合計がカットオフ値以上のため、区分外に該当。</p> <p>毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p>
オゾン層への有害性	<p>データ不足のため分類できない。</p>
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>都道府県知事などの許可をうけた、産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>未硬化物は廃プラスチック類に分類される(管理型産業廃棄物)。</p> <p>硬化物は廃プラスチック類に分類される(安定型産業廃棄物)。</p>
汚染容器及び包装	<p>空容器類を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後、に産業廃棄物として処理または回収にまわす。</p> <p>()に管理型・安定型の区分を示す。</p> <p>外箱、紙管など紙製容器・包装: 回収又は紙くずとして処理(単体で管理型産業廃棄物、付着成分がある場合も管理型産業廃棄物)。</p> <p>金属缶、金属ドラム、金属チューブ類: 金属くずとして処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。</p>

ガラス容器: ガラスくずとして処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。

プラスチック製のボトル、チューブ、袋など: 廃プラスチックとして処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。

14. 輸送上の注意
国際規制

海上規制情報
Marine Pollutant
Transport in bulk
according to
MARPOL
73/78, Annex II, and
the IBC code.

非該当
Not applicable
Not applicable

国内規制

航空規制情報
陸上規制
海上規制情報
海洋汚染物質
MARPOL 73/78 附
属書II 及びIBC コー
ドによるばら積み輸
送される液体物質

非該当
非該当
非該当
非該当
非該当

緊急時応急措置指針番号

航空規制情報

非該当
なし

15. 適用法令
労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)

消防法

すず及びその化合物(政令番号: 322)
指定可燃物 可燃性固体類

16. その他の情報
連絡先
参考文献

『1. 化学品及び会社情報』に記載。
JIS Z 7252:2014 GHSに基づく化学物質等の分類方法
経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス(平成25年7月)
JIS Z 7253:2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達-ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
社団法人 日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン(2012年)
日本ケミカルデータベース(株)SDS作成システム「ezSDS」により作成。

その他

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
以前にお渡しした本製品の製品安全データシートをお持ちの方は破棄して下さい。
法改正や製品の改良によりSDSを改訂する場合がありますので、作成・改訂日が2年以上たっている場合は最新版であるかどうかご確認下さい。